

後援会だより

年頭にあたって



後援会会長
池田 隆
(専一/明/デザイン工学科)

明けましておめでとうございます。2015年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

法政大学は昨年4月に就任された田中優子総長の下、新たな体制に生まれ変わり、少子化が進む我が国での大学間の厳しい競争を勝ち抜くためのさまざまな改革に着手されました。とりわけ、社会のグローバル化に対応し、大学を徹底に国際化し、グローバルに活躍できる人材を数多く育成・輩出する大学を目指して、文部科学省が創設した「スーパーグローバル大学創成支援」事業に申請し、見事採択されたことは皆さまご存じの通りです。

また、校友会も同じく昨年4月から一般社団法人化され、より盤石な卒業生組織として生まれ変わり、大学支援や卒業生のネットワーク強化に向けてキャリア支援を始め、さま

ざまな施策を推進されています。

私たち後援会も、大学や校友会との連携や協力関係を強め、学びの環境をより充実させるべく、大学と学生への助成・支援に取り組んでまいりました。経済的支援のみならず、体育会の試合・合宿応援、国際交流イベントへの参加等、多岐にわたっています。今後とも後援会の設立目的、活動理念を忘れることなく、大学、学生への支援を続けてまいります。

さて、今年度は東日本大震災が発生した年に入学した学生が卒業を迎えます。入学式も中止となり、授業開始も1カ月遅れるなど、異例づくめの中で大学生生活をスタートさせました。彼らには、震災で大切なもの、大事な人を失った人々の心の痛み、人との「絆」の大切さを忘れずに、社会に巣立つてもらいたいと思います。

最後になりますが、会員の皆さまには、本年も引き続き後援会活動へのご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、皆さまのご多幸を祈念いたしまして新年のごあいさつをいたします。

「子どもの母校は我が母校」後援会が保護者の皆さまと作るページです。

アメリカンフットボール観戦記



森 隆司
(専修/経営学部)

11月23日(日)、日本大通りのイチョウもすっかり色づき晩秋の景色に包まれた横浜スタジアムにて「トップ8関東大学アメリカンフットボール秋季リーグ(日本大学戦)」が開催され、後援会のスポーツ応援隊の一員として初めて応援に参加させていただきました。この日の試合は

共にここまで全勝同士の日本大学との「その先にある甲子園ポウル」をかけての試合であったため、集まった観客、応援団にも緊張の色がみられ、スタンド全体に静かなる闘志がふつふつと湧いてきました。盛り上がりも最高潮に達した中で、試合は日大のキックオフが始まりました。第1プレーで、相当なヤードを法政がゲインし、さすがトマホークス!!と感嘆しました。試合の随所でオプションプレーやプレイアクションなど学生らしいプレーが光り、寒さを

忘れるほど応援に夢中になりました。普段アメリカのNFLをテレビ観戦ばかりしているので、30年ぶりに生で観る試合の迫力は格別でした。また試合運び、レベルも当時より格段に進歩していて大変見応えのある一戦でした。

後半は法政が終始ボールを支配していましたが、一歩及ばず無念の敗退となってしまいました。しかしあの日大をここまで苦しめた法政の後半の勢いは必ずや次のシーズンにつながるものであり、卒業する四年生の悔しさを後輩たちがきつと晴らしてくれるものだと思っています。選手はもちろんですが、熱い応援を繰り広げた応援団、学生の皆さん、関係者の方々、ご父母の姿にも感動しました。久しぶりに学生時代に戻ったような楽しいひと時を過ごすことができました。また来季、応援に駆けつけたいと思います。ありがとうございました。



写真で見る後援会 (2014年4月~11月)



5月9日(金) 監査
(市ヶ谷キャンパス九段校舎後援会事務局)



5月24日(土) 新幹事予定者説明会
(市ヶ谷キャンパスポアソナード・タワー)



6月7日(土) 支部長会議
(市ヶ谷キャンパスポアソナード・タワー)



6月7日(土) 総会
(市ヶ谷キャンパス薩摩ホール)



6月28日(土) 役員研修会
(アルカディア市ヶ谷)



7月3日(木) 常任参与・参与との懇談会
(市ヶ谷キャンパス九段校舎)



7月13日(日) 宮崎県支部総会・父母懇談会
(宮崎観光ホテル)



10月12日(日) 新潟県支部のキャンパス見学
(市ヶ谷キャンパスポアソナード・タワー)



10月18日(土) 駅伝予選会応援
(国営昭和記念公園)



10月19日(日) 首都圏父母懇談会
(小金井キャンパス東館体育館)



11月7日(金) 支部長懇談会
(市ヶ谷キャンパスポアソナード・タワー)



11月8日(土) 学部長・後援会役員との懇談会
(市ヶ谷キャンパス外濠校舎)



伊勢原射撃場でのライフル銃のProne（伏射姿勢）の練習



宇内射撃場での空気銃のStanding（立射姿勢）

息子、智之が法政大学第一中等高等学校に最後の男子校学年として入学して早9年、入試直前に熱を出し、おでこに冷却ジェルシートを貼って試験に臨んだのが昨日のように思い出されます。智之が高2の時東日本大震災が起きました。甚大な被害の復興支援のためにこの年の夏より毎年宮古へボランティアに行ったり、原発や、子供の貧困など広く社



山田昌之
（智之の社会学部）

体育会応援28 「射撃部」

親からのメッセージ

会に関心を持って大学の学部も社会学部に進みました。大学に進学して射撃部を見学したときに、一高の先輩とすぐに意気投合して入部を決めたようです。初め、射撃部とはどんな競技をするところだろうと思いましたが空を飛ばす皿を撃つクレイ射撃とは違い、紙の標的を狙い、その中心に命中させる競技です。今現在全国66の大学がライフル射撃競技を競いあっています、オリンピック正式種目であることがわかりました。

日本においては、銃の所持は銃刀法に基づき厳しく制限されていますが、一定の条件を満たし、公安委員会が開催する講習を修了すれば、標的射撃のみに使用するという条件でライフル銃の所持許可を受けることができます。病院の精神科の診断書と共に申請書を所轄の警察署に提出して公安委員会より所持許可が出る

まで3〜4カ月も掛かりました。射撃部は、1924（大正13）年に創部され今年で90周年となる伝統ある部です。全日本大会の出場権を懸けた秋季関東大会では、男子団体6位、女子団体3位となり、男女共に全日本大会出場を果たしました。この大会で男女共出場しているのは法政大学の他に中央大学と関西大学の2校しかない大会でしたが、結果は厳しいものに終わりました。100周年に向けて気持ちを新たに頑張っしてほしいです。智之は射撃部のマネージャーとして、また日本学生ライフル射撃連盟関東支部の総務として各大学との打ち合わせや大会の運営にも力を注いだようです。我が家が銭湯ということもあり、一度他大学の学生7〜8人を連れてきて一緒に風呂に入り文字通り裸の付き合いをしておりました。来年度は4年生となり主将に指名されました。部長の金原瑞人先生、齋藤寛監督、そして森田高州コーチと共に射撃部



石巻射撃場での東日本大会の集合写真（東日本大会は、選抜メンバーでの遠征）。前列左から2番目が山田選手

の現部員21人と新入部員全員をまとめて、お互いに切磋琢磨して昨年よりもさらによい結果が残せるように頑張ってもらいたいと思います。これからいろいろな人との出会いがあると思います。人とのふれあいコミュニケーションを大切に、自分の将来の糧となるように努力を惜しまないように頑張っしてほしいと思います。



射撃部90周年式典にてあいさつする山田選手



長瀬射撃場での全日本大会のKneeling（膝射）の姿勢



長瀬射撃場での全日本大会のProne（伏射）の姿勢



小学5年生のときの大敗・相撲を始めた幼稚園の頃
須藤小中学校大会



2013年東日本学生相撲リーグ戦取組賞

体育会応援27 「相撲部」

親からのメッセージ



長谷川 智子
（義兄／人間環境学部）

道場の隅で砂遊びをしていた義兄が、本格的にまわしをつけたのは幼稚園年長の頃でした。

4歳年上の兄がわんぱく相撲に出場したのがきっかけで、地元相撲クラブに通い始めたので、一緒に歩いて行くようになりました。体は細く、3人兄弟の末っ子で甘えん坊でしたので心配もしましたが、年上の子に囲まれて練習していくうちに、小学4年生ではわんぱく相撲全国大会に東海地区代表で出場しました。中学は地元の公立中学に通いなが

ら、相撲クラブで練習をしていましたが、地方大会に入賞するもなかなか結果が出ませんでした。

しかし、中学卒業までの9年間、お正月お盆休み以外の毎週土、日曜日午後2時から7時まで練習を一度も嫌がらず通ったことは、我が息子ながらよく頑張ったと思います。

愛知の強豪、愛工大名電高に進学してからは澤田勉監督や、小学生の頃から切磋琢磨してきた仲間にも優勝を獲得しました。ですが、この年は腕の骨折をはじめ多くの怪我に苦しみました。3年生では高校総体、国体をはじめ高知、金沢、十和田、宇佐などの全国大会に出場しました。

法政大学に進学して親元を離れての初めての合宿所生活は不安もありましたが、心優しい先輩や楽しい仲間にも囲まれて充実した練習ができた。



2014年全国学生相撲選手権大会

した。2年生では東日本学生相撲リーグ戦2部で団体戦全勝の結果、敢闘賞を獲得、東日本学生相撲選手権大会個人ベスト16に入賞しました。団体戦では3年生で全国学生相撲選手権大会Bクラス準優勝、翌年は3位と目標であったAクラス入りはかないませんでした。部員一丸となって戦う団体戦は毎回観戦するたびに感動しました。

4年生で副将、主務を任せられ同じ体育会の異種スポーツの多くの選手とも交流ができ、とても勉強になりました。特に応援団とは毎年の市ヶ谷キャンパス「自主法政祭」に合同で参加していました。ちゃんこ鍋の模擬店は長い行列ができるほどの大人気で、試合応援以外でも深い友情があつたようです。

永池悟監督はじめOBの方々、地元の商店街の皆さん、合宿所に練習に来る小中学生のちびっこ力士たち



相撲部の川崎合宿所の道場。前列右が長谷川選手

と家族の方々など、学生生活以外にも多くの方と交流して支えられ過ごした4年間は一生涯の宝物となることでしょう。これからは社会人として感謝の気持ちを忘れずに、夢に向かって前進してほしいと願っております。

親としても各地の試合応援や遠征に行き、叱咤激励して泣き笑ったこともよい思い出となり、楽しませてくれたことに感謝しています。

「日本の国技」としての伝統を守り受け継ぎ、練習に励んでいる法政大学相撲部への温かいご声援ご支援をこれからもよろしく願っています。